

## 豊かな時間、楽しい場所。

豊かな時間とはなんなのか？

親しい家族と一緒にいる時間。友達との楽しい会話。おいしいものを食べている時。この定義は、とても抽象的で人によってバラバラだろう。しかし厨房に流れる時間は、この言葉にうってつけだ。

様々な人が、名前さえ知らない誰かが、音楽を通して笑い合える。そして、それを阻むものは特にない。音楽にとって、この「豊かな時間」というのは必要不可欠だが、それを満たしてくれるのがこの厨房だ。

私は音楽的な機会に恵まれることはあまりなかった。勝手に歌い一人で満足する。そんな一人よがりな自分を快く受け入れてくれたこの「豊かな時間」に満たされる厨房は、何にも代えがたい。

そもそも音楽もそうだが、文化資本というものは環境によるところが非常に大きいものだ。私の感想ではあるが、家庭の所得によって、得られる文化的な機会の頻度というものは全く変わってくるように思う。私自身は文化的に恵まれていないということはないと考えていたが、様々な人と交流することによって自らの視野の狭さや文化的な経験の浅さといったところを思うようになった。

そんな私にとって初めて誰かと一緒に音楽をして楽しいと思えた場所が厨房なのだ。これはとても貴重なことだけれど、ここでは当たり前。それはドラムセットやアンプなどの設備と、面白い人々が集っているからこそなのだ。

例えば、友達の友達が、ブルース調のロックミュージックに合わせてドラムやギターを弾く。そしてぼくは心地いい奇跡のような空間で、叫ぶ。

他の日には、聞いたこともない音楽が流れ、その音に向かってなにもわからな  
いまま思うように歌う。こんなことはとてもじゃないが、ほとんどの人にとってな  
いことだろう。それがこの厨房が貴重たる所以だ。

即興バンドを結成して演奏できたのもここが初めてだった。元々はある寮生と  
私だけでカバー曲の練習に勤しんでいたが、結果的にフルメンバーで演奏するこ  
とができるようになった。普通のことかも知れないが、私のような人間にとっては奇  
跡じみているように感じられた。

厨房使用者だけと遊ぶのではなく、吉田寮生や寮外生と交流の機会を持つこと  
ができ、私の人生であまり関わることのなかったような人々の話を聞くこともでき  
た。そんなみんなとお酒を交わしたり交わさなかったりしながら話す時間は、ゆっ  
たりと流れながらとても早く感じられる。トピックとしては多種多様で、決して飽  
きることはない。まさに「豊かな時間」であり、私にとって厨房が繋げた人々は決  
して厨房使用者だけではなかったのである。

厨房に掲げられている言葉に「厨房は楽しい場所であり続ける。」とある。素  
朴な言葉だけれど、これを担保するのは大変な作業だ。厨房使用者のみんなが機材  
の修理や、イベント運営の手伝い、日々の話し合いをして、やっと叶えられる言葉  
だからだ。そして私はそんな「楽しい場所」で「豊かな時間」を過ごすことができ  
る。それはみなさんの努力のおかげだし、頭が下がる思いである。ありがとうございます。

そして、「楽しい場所」は多いようで少ない。もちろん人によってバラバラだ  
が、それを改めて標榜している空間は少ないだろう。それを思うと、この言葉をさ  
も当然に掲げられる空間はなんて勇ましいのだろうと私は感じてしまった。

吉田寮の立ち退き裁判に関わる昨今の危機的な状況の中、この寮の存続と一蓮  
托生の厨房がどこまで続くかは誰にもわからない。けれど、その続けようとする意  
志には、寮生や寮外生、厨房使用者の行動がともなっており、その行動がその意志  
を本物たらしめている。私も、「豊かな時間」が流れる「楽しい場所」がいつまで  
もどこまでも続けばいいなと思うし、その行動の一つとしてささやかながら今これ  
を書いている。

結論、私の言いたいことは厨房とそれに関わる人々への感謝。それしかない。